

研究機関名：仙台医療センター

受付番号：
【研究課題名】 真空固定具使用におけるMRI検査の新生児への影響
【研究期間】 西暦 2019年 7月(倫理委員会承認後) ～ 2019年 11月
【研究の対象】 2018年1月～2019年9月までに、NICU又はGCUに入院しMRI検査を行った新生児
【研究の目的・方法】 A病院では安静を保てない新生児に対し、鎮静薬を使用しMRI検査を行っている。しかし、鎮静剤使用による副作用として呼吸抑制や低血圧を伴うため、検査中のみならず検査後もSpO ₂ や心拍数をモニタリングする必要がある。また、検査後の哺乳開始時には十分な覚醒ができていない場合、誤嚥のリスクがあるため注意が必要となる。 そこで、鎮静剤を投与せずに新生児の安静を保ちながら検査が行える真空固定具の使用を開始した。真空固定具使用開始後、体温の上昇が見られた事例があった。田中は「真空固定群は検査後の高体温が有意に多いが、授乳後、検査室への移動中、検査中、検査後NICUに帰室するまで、明らかな嘔吐での悪化は認められなかった」 ¹⁾ と述べている。A病院においても、体温上昇例が見られているため、現状を明らかにし、その結果から今後の適切なケアの検討につなげたい。
6. 研究方法
1) 研究の種類 観察研究
2) 研究対象・研究期間 対象：2018年1月～2019年9月までに、NICU又はGCUに入院しMRI検査を行った新生児 期間：2019年5月～2020年1月
3) データの収集方法・手順
1. 電子カルテよりデータ収集を行う。
2. 対象患児から、以下のデータを収集する
①検査時対象の基本情報：修正週数、日齢、体重
②真空固定具使用前後の体温・脈拍変動
③MRI検査前後のSpO ₂ 低下、無呼吸発作の有無
④MRI検査前後の哺乳時間・嘔吐の有無
⑤真空固定具使用时间
⑥MRI検査に要した時間
4) データの分析方法
1. カルテから得られた対象特性を記述統計にて分析
2. 真空固定具使用前後の体温・脈拍について単純集計し比較する
3. MRI検査前後のSpO ₂ 低下、無呼吸発作の有無、哺乳時間・嘔吐の有無について単純集計
4. 真空固定具使用时间、MRI検査時間を記述統計にて分析
情報管理責任者 母子医療センター NICU 新生児集中ケア認定看護師 菊池 美穂

【研究に用いる試料・情報の種類】

1. 検査時対象の基本情報：修正週数、日齢、体重
2. 真空固定具使用前後の体温・脈拍変動
3. MRI 検査前後の SpO₂ 低下、無呼吸発作の有無
4. MRI 検査前後の哺乳時間・嘔吐の有無
5. 真空固定具使用時間
6. MRI 検査に要した時間

【試料・情報を利用する者の範囲】

研究責任者

母子医療センター NICU 新生児集中ケア認定看護師 菊池 美穂

【問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

仙台医療センター 母子医療センター 菊池 美穂 (代表研究者)

〒 983-8520 仙台市宮城野区宮城野 2-11-12

電話 022-293-1115